「授業評価アンケート」に関する Web アンケート調査の結果

（2009 年 12 月実施）

はじめに

本調査の主な目的は、(1)全学的な取り組みである授業評価アンケートに対して、連携校の各教員がどのような意識を持って活用しているかの現状を把握する、(2)連携校の教員のあいだで調査結果を情報共有し、授業評価アンケートを授業改善に役立てる意識を高める、の 2 点です。

本調査は、放送大学ＩＣＴ活用・遠隔教育センター（旧メディア教育開発センター）の Web アンケートシステム ＲＥＡＳ（リアルタイム評価支援システム）を使って実施しています。また、質問項目(9)、(10)の定性項目のデータ分析は、テキストマイニングソフト「True Teller」（野村総研）を利用しています。

１．基礎データ

回答者数　　311 名（回答率　約 14%）

性別　　男性 72%、女性 27%

年齢　　30 代 22%、40 代 25%、50 代 30%、60 代 31%

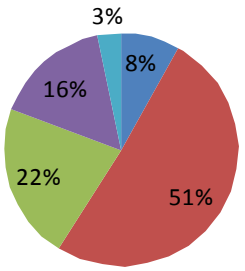
職位　　教授 46%、准教授 23%、専任講師 13%、助教・助手 7%、その他 6%

授業経験年数　　平均 15.2 年（標準偏差 10.7 年）

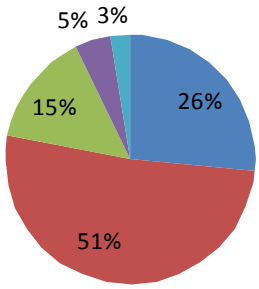
２．アンケートの回答：定量項目（１）～（８）

青：そう思う　赤：どちらかといえば思う　緑：どちらでもない、わからない　紫：そう思わない　水：全く思わない

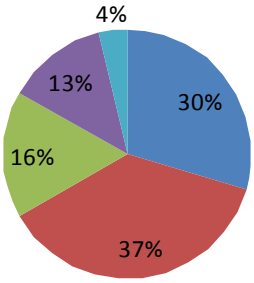
(1)授業評価の適切さ



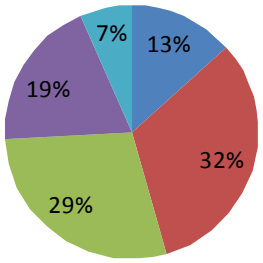
(2)授業改善への参考度



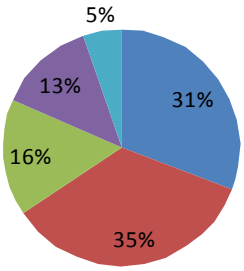
(3)フィードバックの必要性



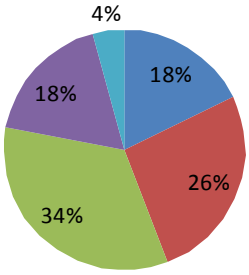
(4)教員どうしの相互参照



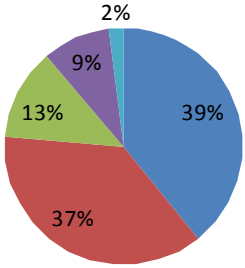
(5)他教員の授業の参考度



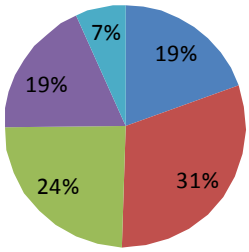
(6)教員への支援の必要性



(7)記述式項目の必要性



(8)Webアンケートの希望度



各項目に関して、以下の 2 点を簡潔に述べる。

結果：「そう思う」「どちらかといえば思う」を含めた肯定評価の割合(%)。教員の人数の％は、回答者の中での割合である。

検討点：質問項目に関して、本システム WG による今後の検討が望まれる点（必要な項目のみ）

(1) アンケート結果は、受講生が授業を適切に評価したものであると思いますか？

結果：約 59%の教員は、受講者には授業を適切に評価する能力があり、評価結果を尊重する必要があると考えている。

(2) アンケート結果を参考にして、授業改善につなげていますか？

結果：約 77%の教員は、授業評価アンケートの主な趣旨といえる授業改善を理解して実践している。

検討点：授業評価アンケートの結果を授業改善につなげる手法の確立

(3) アンケート結果に関して、担当教員から受講生に対して何らかのフィードバックが必要と思いますか？

結果：受講生への評価結果のフィードバックに関して、約 67%の教員は抵抗がなく、受講生の利益につなげることが必要と考えている。

(4) アンケート結果を他の教員に見せて、授業改善について相談しあうことが必要と思いますか？

結果：アンケート結果に基づいて教員がチームで授業改善に取り組むことに、約 45%の教員が必要性を認識している。

(5) アンケート結果の良い教員の授業の内容や方法を、参考にしたいと思いますか？

結果：約 66%の教員は、受講生の評価の高い教員から授業アイデアを吸収したいと考えている。

検討点：授業アイデアを教員どうしで情報共有しあう体制づくり

(6) アンケート結果の良くない教員に対してサポートが必要と思いますか？

結果：約 44%の教員は、授業改善に対する他者や組織のサポートの必要性を認識している。

検討点：組織的サポートが有効であることを示すための、成功例の提示、方法論の確立など。

(7) 記述式のアンケート項目は必要と思いますか？

結果：授業評価の把握や授業改善のヒントを得る上で、約 76%の教員は記述式の項目を重視している。

(8) 各教員が手軽に質問項目を設定できる Web アンケートがあれば、活用したいと思いますか？

結果：約 50%の教員は、各教員による任意での Web アンケートを活用したいと考えている。

検討点：使いやすさ、操作面などで利用可能性の高い Web アンケートシステム

３．自由記述：定性項目(9)，(10)

ここでは，自由記述を求めた項目(9)および項目(10)への回答を，テキストマイニングソフト「True Teller」（野村総研）を使って分析した結果を報告します。テキストマイニングによる分析として，ここでは単語の出現傾向を主に報告していますが, その解釈においては特徴が見られた単語が実際の記述の中でどのように使われているかをあわせて検討しています。

分析対象項目

(9). (2)について、アンケート結果をどのように授業改善につなげていますか？

(10).(6)について、アンケート結果が良くない場合、どのようなサポートがあるとよいと思いますか？

311 名のアンケート回答のうち，項目(9)に 227 件，項目(10)に 202 件の記述がありました。

頻出単語と話題

2 つの項目に対する回答で，頻出した単語の一覧を表 1 に示しました。対象となった単語は，名詞・形容詞・動詞のみです。

授業改善に関する項目(9)では，「要望」「意見」「指摘」といった単語が多く現れています。これは，学生からの指摘に対する授業改善を行っているという回答が多いことを反映しているといえるでしょう。また，「改善」「悪い」等が多くみられ，学生から指摘された悪い点を改善しようとしていること，「具体的だ」「記述式」等からは記述式項目に現れた学生の具体的な指摘を重要視している教員が多いことが読み取れます。記述式のアンケート回答が重視されていることは，項目(7)の結果にも表れています。さらに，「板書」「スピード」「私語」「教材」，また表には含まれていませんが「声」（9 件）等は，具体的に多くの方が改善に努めている内容といえるでしょう

次に，アンケート結果が良くない場合のサポートに関する項目(10)では，質問である「どのようなサポートがあるとよいか」に対する答えとして「アドバイス」「見る」（他の教員の授業を見る，当該教員の授業を他の教員が見る），「相談」「FD」などが多く挙げられています。また，アンケート結果の良し悪しに関連した記述や，サポートの必要性に関する単語も多く出現していることがわかります。

項目(9)と，項目(2)「アンケート結果を参考にして、授業改善につなげていますか？」への意見との関係

項目(2)での選択の違いと，項目(9)への回答の関係を分析しました。項目(2)への回答の違いをグループとし，単語の出現頻度数とグループの違いの関係を，コレスポンデンス分析によって分析しました。ただし，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」という回答者は多い一方，否定的な選択肢を選んだ回答者が非常に少ないため「そう思わない」「全く思わない」の 2 つの回答は 1 グループにまとめて，全体で 4 グループの比較をしています。

コレスポンデンス分析の結果得られた 2 次元のマッピングを，図 1 に示しました。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の 2 群が左下の近い位置に配置され，これら 2 グループは項目(9)で似た記述傾向を示していることがわかります。一方，「どちらでもない、わからない」と「そう思わない・全く思わない」の 2 群は右方向に順に配置され，プロットの横軸（コレスポンデンス分析の第 1 軸）にそって項目(2)への回答態度が並んでいます。

項目(2)で，改善につなげていると回答した 2 グループのある左側領域には，具体的な改善内容や機会（教材，私語，スピード，板書，次年度，等）や，改善に努める態度等に関すると思われる単語が配置されています。項目(2)のこれら 2 グループでは，項目(9)に対してもこのような改善内容が具体的に記述されていることがわかります。

項目(10)と，項目(6)「アンケート結果の良くない教員に対してサポートが必要と思いますか？」への意見との関係

同様に，項目(6)への回答グループと，項目(10)への回答傾向の関係を，コレスポンデンス分析によって分析しました。ただしここでも，項目(6)に「そう思わない」と「全く思わない」と答えた人数が少ないため，これらを 1 グループに統合しました。

コレスポンデンス分析の結果得られた 2 次元のマッピングを，図 2 に示しています。プロットの左右方向（コレスポンデンス分析の第 1 軸）に，項目(6)での賛否が順に並んでおり，左側が「必要無し」，右側が「必要あり」という軸が現れています。

出現する単語についてみると，右側にはサポートの内容に関わると思われる単語（アドバイス，相談，受ける，見る，等）が多く，サポートの必要性に肯定的な回答者は，質問である「どのようなサポートがあるとよいと思いますか？」に対し，具体的なサポート内容としてこれらを回答しているようです。

一方，プロットの左側には「意識」「自分」「サポート」「必要だ」「改善」といった単語が配置されています。項目(6)で否定的回答傾向をしたグループの，項目(10)の記述内容におけるこれらの単語の使われ方をあわせて検討したところ，これらの記述は外部からのサポートの有効性に対する疑問の表明とつながっている傾向がみられました。

４．全体を通じて

全体的に肯定評価の傾向が強く、(4)、(6)以外の質問項目はすべて、「そう思う」「どちらかといえば思う」を含めた割合が 50%以上でした。全学的な取り組みである授業評価アンケートに取り組む姿勢や、その結果を授業改善につなげる意欲は、おおむね高いと解釈できます。

一方、 (4)、(6)の質問項目で、「そう思う」「どちらかといえば思う」を含めた割合が 50%以下でした。授業評価アンケートの結果を、教員どうし、あるいは組織的な協調体制のもとで活用することに対しては、教員は積極的でないと解釈できます。

本調査結果は、回答された約 14%の教員のデータに基づいています。連携校の全教員の傾向を調査結果に反映させるために、今後も回答率を高める必要があると考えます。

以上

2010 年 2 月　京都ＦＤ開発推進センター／ＦＤシステム検討ＷＧ

表1　頻出単語　（頻度10以上の単語）

項目(9) 授業改善 (227)

	単語	品詞	件数
1	授業	名詞	102
2	**学生**	名詞	98
3	**改善**	名詞	62
4	アンケート結	名詞	54
5	**改善する**	動詞	47
6	**内容**	名詞	43
7	**要望**	名詞	33
8	アンケート	名詞	32
9	**板書**	名詞	28
10	**意見**	名詞	25
11	**項目**	名詞	25
12	参考	名詞	23
13	具体的だ	形容詞	21
14	悪い	形容詞	19
15	自分	名詞	19
16	**努める**	動詞	19
17	**指摘**	名詞	16
18	教員	名詞	15
19	ない	形容詞	14
20	自己	名詞	14
21	良い	形容詞	14
22	対応する	動詞	13
23	**スピード**	名詞	12
24	**記述式**	名詞	12
25	**教材**	名詞	12
26	**次年度**	名詞	12
27	難しい	形容詞	12
28	**応える**	動詞	11
29	**私語**	名詞	11
30	**心がける**	動詞	11
31	努力	名詞	11
32	工夫	名詞	10
33	仕方	名詞	10
34	**書く**	動詞	10
35	**説明**	名詞	10

項目(10) サポート (202)

	単語	品詞	件数
1	**教員**	名詞	82
2	授業	名詞	81
3	アンケート結	名詞	56
4	学生	名詞	54
5	**サポート**	名詞	46
6	**良い**	形容詞	42
7	**悪い**	形容詞	37
8	**必要**	名詞	34
9	改善	名詞	32
10	**必要だ**	形容詞	29
11	アンケート	名詞	26
12	内容	名詞	26
13	自己	名詞	20
14	ない	形容詞	17
15	**機会**	名詞	17
16	**大学**	名詞	17
17	具体的だ	形容詞	16
18	改善する	動詞	15
19	**アドバイス**	名詞	14
20	結果	名詞	14
21	**見る**	動詞	14
22	**どのようだ**	形容詞	12
23	参考	名詞	12
24	**受ける**	動詞	12
25	努力	名詞	12
26	**問題**	名詞	12
27	**教育**	名詞	11
28	自分	名詞	11
29	**相談**	名詞	11
30	**FD**	名詞	10
31	**意識**	名詞	10

赤字は，2項目を比較した時に一方の項目だけに特に頻出したキーワード。

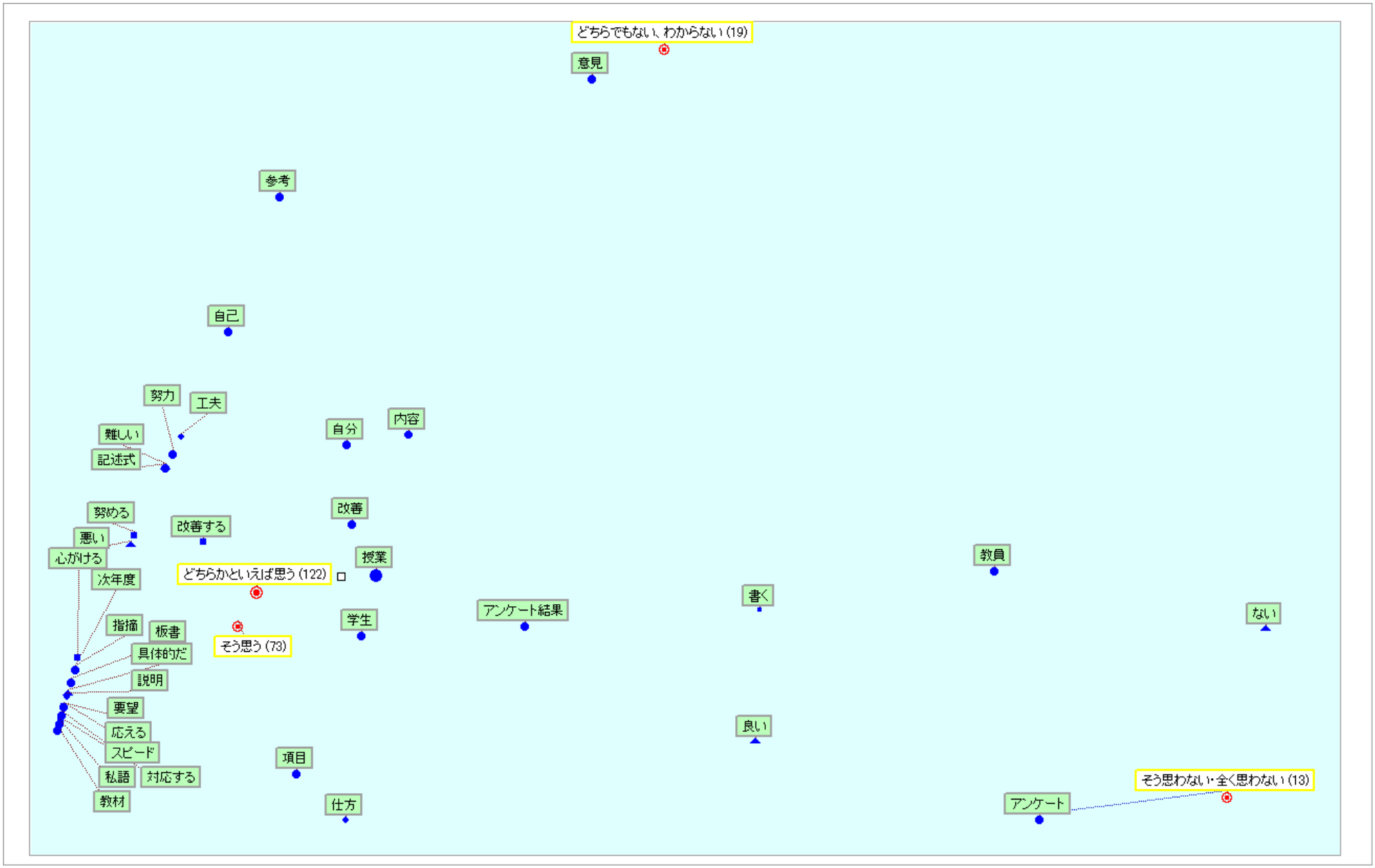


図1　項目(9)の単語マッピング（項目(2)への回答グループの比較，頻度10以上の上位35語を使用）

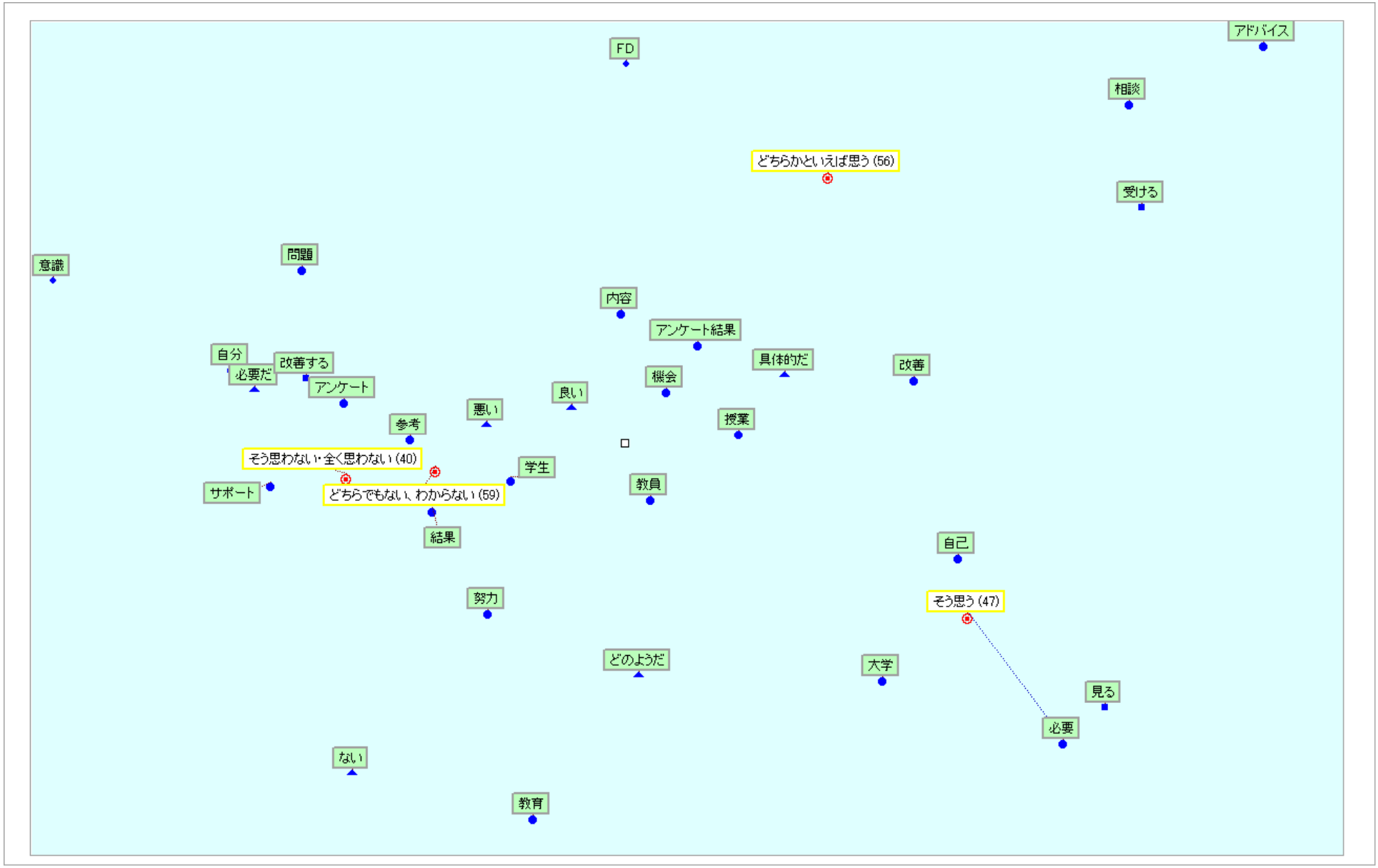


図2　項目(10)の単語マッピング（項目(6)への回答グループの比較，頻度10以上の上位31語を使用）